

## ▼意見等及び対応状況一覧&lt;令和4年度 ステークホルダーからの意見聴取&gt;

No.	部署名	取組名	ステークホルダー	意見の内容	改善事例
1	連合小児発達学研究所	院生室の環境整備	在学生	什器類が経年劣化のため買い替えて欲しい。	劣化が著しいものについて更新した。また、院生室担当教員を新たに置き、院生からの要望を一元的に集約する体制を整えた。
2-1	附属図書館	2019年度利用者アンケート	在学生	文献検索ガイダンスを実施していただけるので大変助かっています。	2020年度以降のコロナ禍を経て、場を限定しないオンラインでの講習会や学習相談等ができるようになり、学習支援が充実した。
2-2	附属図書館	令和4年度箕面市立船場図書館利用者アンケート	地域住民	書だなのロケーションがわかりにくい。	各階の本の場所がわかる図を1枚にしたリーフレットを新たに作成した。
2-3	附属図書館	令和4年度箕面市立船場図書館利用者アンケート	地域住民	昨年のクリスマスイルミネーションの様なイベントをしてほしい。子どもたちを喜ばせてほしい。	12月に「おはなし会スペシャル」としてクリスマスに関する絵本などを使ったイベントを行った。また、11月にタイ、2月にハンガリーの文化を紹介する子ども向けイベントを行った。いずれも多くの子どもが参加して好評だった。
3-1	産業科学研究所	企業との懇談会	企業関係者	産学連携を進める上で、産研における研究について、SDGsの観点からの位置づけが重要	全研究室を対象とした研究テーマの収集とSDGs項目への区分分け(マップ)作成を行った。
3-2	産業科学研究所	企業との懇談会	企業関係者	個別研究内容についての詳細説明があれば参考となる。	企業との懇談の場で産研の研究紹介を行い、参加企業からのニーズに基づいて新規の産学共同研究の開始へと繋がった。
4-1	国際教育交流センター	部局訪問	教員	部局でのFDを実施してほしい。	令和5年2月に部局対象FD実施
4-2	国際教育交流センター	部局訪問	教員	論文のためのアカデミックライティング鍛えてほしい。	アカデミックライティング(学際融合教育科目)を令和5年度春夏学期に豊中で開講
5	生物工学国際交流センター	生物工学国際交流センター関連元教員などからの意見聴取	元教員など	フィリピン政府奨学金による学生受入の打診	フィリピン政府奨学金による学生受入のための体制等を整備し、受入を開始する予定である。
6-1	日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム、大阪大学ファウンデーションプログラム)の学生を対象とした教育活動アンケート	在学生	はじめて論文を書くのは資料を集めることなどいろいろ大変だった。(日本語・日本文化研修留学生プログラム)	プログラム担当教員が論文の書き方講座を行うことにした。加えて、図書館で図書館ツアーを行って資料の探し方を図書館の職員の方から教えてもらう機会を設けるとともに、資料収集に便利なデータベースの情報や検索方法などに関する「データベース講座」を行ってもらうよう図書館に依頼した。
6-2	日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム、大阪大学ファウンデーションプログラム)の学生を対象とした教育活動アンケート	在学生	履修登録で何の授業をとるとよいか悩んだ。(日本語・日本文化研修留学生プログラム)	日本語学、日本語教育学、日本文化学、それぞれの分野ごとに、どのような授業をとるとよいか、履修モデルを含めたレクチャーを、各分野を専門とする教員が行うことにした。
6-3	日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム、大阪大学ファウンデーションプログラム)の学生を対象とした教育活動アンケート	在学生	日本人との交流が少ない、もっと日本人と交流したい。(メイプル・プログラム)	①令和2年度以降、必修科目の中で、箕面についての質問会、座談会、実地見学(箕面公園・勝尾寺)、PBL(Project-based Learning)発表会などを開催し、授業の中で複数回にわたり箕面市民(箕面市観光ボランティアガイド、箕面船場まちづくり協議会、みのおFM、箕面市国際交流協会など)やチューターにも参加してもらい、地域との関係構築を図っている。 ②日本語・日本文化演習科目(MDR)でPBLを行い、令和3年以降は、学生たち自身が交流の機会創出のためのプロジェクトを行うようになっている。プロジェクトを行う過程での箕面市民へのインタビューやアンケート、地域の人と箕面市を歩くなどの活動を通して、交流の機会が少しずつ増えてきている。
6-4	日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム[大阪大学、大阪大学ファウンデーションプログラム]の学生を対象とした教育活動アンケート	在学生	来日当初キャンパス内外の情報が得られず生活に慣れるまでに時間がかかった。(メイプル・プログラム)	①MDRでPBLを行い、学生たち自身がキャンパス内外のガイド、パンフレット、地図などを作成した。令和4年度以降、それらの成果物をメイプル・プログラム内で使用しているコミュニケーションツール(Slack)を使用して共有している。 ②令和2年度にメイプル・プログラムのホームページを作成し、プログラムでの学びについて情報発信するほか、新箕面キャンパスに移転した令和3年度には新キャンパス情報を掲載し、そこでの生活の様子がわかるようにした。

## ▼意見等及び対応状況一覧&lt;令和4年度 ステークホルダーからの意見聴取&gt;

No.	部署名	取組名	ステークホルダー	意見の内容	改善事例
7	エマージングサイエンスデザインR <sup>3</sup> センター	「大阪大学ナノ理工学人材育成コンソーシアム・理事会」からの意見収集	企業関係者	本センターの前身であるナノサイエンスデザイン教育研究センターにおいて提供してきた社会人教育プログラムの1コースである「超分子・ナノバイオ」コースは、マクロ分子・細胞・生体を一連のものとして理解した上で提供してきた。このコースに対して、近年のバイオテクノロジー発展によるライフサイエンス新展開に対応させる必要があるとの意見が出された。	「人材育成プログラム・ナノライフサイエンスコースの新設」 本意見を受けて、約2年間にわたる本コンソーシアムを中心とした企業調査と新規カリキュラム企画を経て、令和2年度より、当該コースを「ナノライフサイエンス」および「ナノ機能化学」の2コースに拡充改組した。 改編にあたっては、本学内において国際医工情報センターと調整を行い、本センターが目指す人材育成(基礎・応用・国際化)と国際医工情報センターが目指す人材育成(実用化・応用)の谷間を埋める中間の知識と知恵を育む人材育成がぜひとも必要との認識で一致、賛同を得た。この学内での認識のもとで新コース「ナノライフサイエンス」には医学系研究科、微生物病研究所、薬学研究科の8名の教員が講師として参画している。この新規「ナノライフサイエンス」コースには想定通りライフサイエンス分野をこれから指向する企業からの受講生を多数受け入れ、ナノエレクトロニクス材料・デバイス学コースに次ぐ人気であり(開始後の2年間に於いて受講生は令和2年度16名、同3年度19名、本コース開始によって本コンソーシアムへ新規加入した企業9社)、本センターへの改組後も引き継がれて現在に至っている。
8-1	知的基盤総合センター	知的財産法プログラムのカリキュラム改定に向けたヒアリング	企業関係者	外国法を学ぶニーズは高い。	法学研究科博士前期課程知的財産法プログラムに科目「外国知的財産法」を新設した。
8-2	知的基盤総合センター	知的財産法プログラムのカリキュラム改定に向けたヒアリング	企業関係者	弁理士試験の短答試験は、予備校に1年通えば通常はパスする。大学院で2年かけて短答試験免除資格を得る必要があるか疑問	弁理士試験の短答試験免除資格の取得に対応した旧カリキュラムから、科目構成のスリム化を行い、短答試験免除資格の取得に対応せず研究能力の涵養に軸足を移した新カリキュラムに移行した。
9-1	サイバーメディアセンター	サイバーメディアセンターホームページ	教員	Wifiの増強や有線LANなどネットワーク環境の整備及び充電用コンセントを整備して欲しい。	教員卓周辺にブレンデッド授業に対応可能な環境を整備した。
9-2	サイバーメディアセンター	サイバーメディアセンターホームページ	教員	遠隔講義用にZoomのアカウントを発行して欲しい。(複数名)	遠隔講義用のソフトウェア(Zoom)を本センターのライセンス管理範囲内で無償提供・利用者支援を実施した。
9-3	サイバーメディアセンター	サイバーメディアセンターホームページ	その他	全学IT認証基盤サービスのパスワード再発行の申請を窓口に行かずに行いたい。	これまで窓口以外の申請方法はFAXのみとしていたが、自宅等から行えるようWebフォームによる申請方法を追加した。
10-1	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	自然科学系女子学生ネットワーク「asiam」との意見交換	在学生	理系進学を小学生のときから決めていた。	ワクワク科学教室(女子学生による出前実験教室)の実施により、ロールモデル提示と保護者のアンコンシャス・バイアス(女子=文系)の払拭に寄与。
10-2	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	女性研究者との意見交換	教員	トイレトーパーと同様に生理用品をトイレ内で入手できるようにすることが、ジェンダー平等とウェルビーイングにつながる。	生理用品提供事業を開始。環境にも配慮した阪大オリジナルのディスペンサーを全学女子トイレ・オールジェンダートイレ内に順次設置
10-3	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	女性研究者との意見交換	教員	女性研究者が活躍するためには、男性教員や学生の意識改革が必要	学生・教職員必修のアンコンシャス・バイアス研修をオンデマンド型e-learningで提供
10-4	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	女性研究者との意見交換	教員	従前の制度では人件費の問題で産前休暇に入るまで後任補充ができないが、授業担当や学生指導など、身体的に負担のある妊娠期からの支援が欲しい。	「出産予定女性教員の代替教員充当の弾力的運用制度」の創設。妊娠判明後すぐに代替要員を措置できるように、人件費を支援
10-5	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	部局長との意見交換	教員	研究支援員制度について、ニーズに対応するため、募集回数を増やしてほしい。	左記制度の年1回の募集を2回に増やした。
10-6	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	部局長との意見交換	教員	研究業績が優秀でも、ポストがないために女性研究者を上位職に上げることができない。	「教員上位職における女性比率向上施策(差額人件費支援)」制度の創設。上位職との人件費差額相当額を5年間措置し、早期の昇任を支援
11	適塾記念センター	適塾見学会、適塾講座等の参加者へのアンケート	参加者	適塾周辺の歴史についても知る機会があれば有難い。	道修町まちづくり協議会のHPに「道修町コラム」の寄稿を令和4年5月から開始した。(月1回掲載)
12-1	21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	参加者	ライブ配信だけではなく、後日ウェブ配信をしてほしい。	後日ウェブ配信を実施した。
12-2	21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	参加者	会場の椅子が窮屈であったり、空調の調節がうまくいかない等会場の環境が快適ではない。	R5年度からはリニューアルオープンした中之島センターで開催し、会場の環境を向上させることとした。
12-3	21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	参加者	後ろの席から見づらかったり、前の席の人でスライドが隠れてしまったりした。	会場設営を工夫することを検討している。
13	サステナブルキャンパスオフィス	キャンパスイメージアンケート	在学生	トイレが古い。	トイレの老朽改善工事の実施(設計監修)
14	本部事務機構 企画部	大阪大学NewsLetter読者アンケートの実施	企業関係者	表紙の学生が白シャツで統一されているのは、さわやかな印象の反面、多様性の時代にはそぐわなくなっているのではないかと。	表紙コンセプトを6年ぶりに改めるきっかけとなった。